

令和4年度第1回島田市高齢者・障害者虐待防止及び障害者差別解消ネットワーク会議

- 1 開催日時 令和4年9月1日（木） 午後3時00分から午後4時30分まで
- 2 開催場所 保健福祉センターはなみずき 研修室
- 3 出席者 【委員】

ふるい後見事務所	古井 慶治（会長）
島田市医師会	田代 修司
静岡県司法書士会	佐藤 麻妃
島田市民生委員・児童委員協議会	大石 ふみよ
静岡県人権擁護委員	清水 幹郎
ケアマネットしまだ	寺田 愛子
特別養護老人ホーム ところは	鈴木 晃浩
デイサービス 水のさんち	平川 尚登
一般社団法人 真寿	大畑 真亮
社会福祉法人島田市社会福祉協議会	菅ヶ谷 喜代美
金谷中学校区地域包括支援センター	本田 真未
静岡県島田警察署	大石 勝宏
島田公共職業安定所	田中 美幸
静岡県中部健康福祉センター	鈴木 藤生
島田市健康福祉部包括ケア推進課	大塚 昌利
島田市健康福祉部福祉課	山田 敏雄

【事務局】

包括ケア推進課地域支援係 係長	川本 実子
包括ケア推進課地域支援係 係長	米澤 美晴
福祉課 課長補佐	山内 健次
福祉課障害者支援係 保健師	大橋 亮真

4 会議要録

- 1) 開会
- 2) 会長あいさつ

3) 委員長及び事務局職員紹介

委員・事務局紹介

4) 報告・協議

①令和3年度障害者虐待及び障害者差別対応状況について
資料2を用いて事務局説明。

②令和3年度高齢者虐待対応状況について
資料3を用いて事務局説明。

対応状況についての質問・感想

③啓発活動について
資料4・5を用いて事務局から説明。

④事例

事務局から説明。

(委員) 各機関で連携してできることはあるので分業でやっていきたい。

(委員) 同じような疾患、同じような境遇の人たちが話し合う場に参加し、本人の困っていることを打ち明けることで自分の困り感を手放すことで、不安感や孤独感は解消されるのではないかと。

(委員) 最初のとっかかりは社協でもいいがそこからいろんな機関につながっていきチーム支援ができたらと思う。

(委員) 本人がその就労の必要性を理解してやれていないとすぐにやめてしまう。やる気だけでなく、本人がどれだけ理解してやれているのか確認しながら支援することが必要。

(委員) 病院への受診支援をしたり、必要な場合には措置診察をしたりなどする。関わった方に関してはその後必要なことについても支援をするようにしている。きっかけはどんな形でも良いのでかかわりを持てるとよい。

(委員) どういった生き方をしてきたのかといった生活背景を知ることで次の支援につながるヒントが見つかるのではないかと。また、支援をする際にも相手にその支援受け入れた場合のメリットをしっかりと説明し、理解してもらうことも重要なのではないかと。

(委員) ケース会議等でご家族や周りの背景を知る。じっくりと時間をかけて寄り添っていくことが必要。

(委員) 高齢者宅を訪問し、声掛けをしている。少し気になることがあれば話をするようにもしている。そうするとなんとなくの人となりが見えてくる。気になる家庭等があれば、経験豊富な民生委員が担当するなどの対応をしている。

(委員) 虐待を早期発見した際には、必要な機関につなぐということをしているが、ケースとして把握されてから、自分達の立場でできることはない。虐待は孤立等の人間関係が原因になってくると思う。地域には元民生委員や元保護司など福祉に携わっていた方がいるはず。そういった方たちで情報共有をすることで、地域での見守りが成り立つのではないかと。

(委員) それぞれができることというのはあって、このネットワークの中で誰かができることの限界をちょっと踏み出すことができればうまくいくことがあるように感じる。それはケースにもよると思うが、こういった場面でそれぞれの踏み出せる範囲と限界を共有することで、実際にケースが上がってきた際に各機関へ相談すべきことの整理がつき、解決に近づくのではないかと。

(会長) 今後の仕組みづくりというところで国も重層的支援とっており、地域共生社会に向けた地域づくり支援にも力を入れていくことになっている。具体的な事例を通して、自分たちの組織の限界はどこなのか、ここまでなら協力できそうだといいところを考えていく。また、今の仕組みで難しいのであればどうすればいいのか検討していく。今日の事例検討のようなことをしていくことで具体的な仕組みづくり考える必要がある。